

都市未来拠点・新幹線新駅対策特別委員会会議録

令和7年6月12日

寒川町議会

出席委員 関口委員長、福岡副委員長
青木委員、佐藤委員、廣田委員、小泉委員、杉崎委員、太田委員
岸本議長

説明者 皆川倉見拠点づくり担当参事、鈴木専任主幹、山本技幹、齋藤主査

案 件

1. 新幹線新駅誘致とツインシティ倉見地区まちづくりの経過等について
(町長室倉見拠点づくり担当)
2. その他

午前9時00分 開会

【関口委員長】 それでは、改めておはようございます。

それでは、ただいまより、都市未来拠点・新幹線新駅対策特別委員会を開会いたしますので、よろしくお願いたします。

この委員会ができて初めての特別委員会になりますので、よろしくお願したいと思います。

また、先ほども拠点づくり担当参事から話がありましたように、町長室ができて、担当ということで拠点づくり担当が町長室に入りましたので、そういった意味では新たな組織の体制、それから我々も新たなスタート、こういうようなことでこれから特別委員会の運営に当たってまいります。

どうか皆様のご協力をいただきながら、1歩でも2歩でも3歩でも前に進むような、そのような特別委員会にしていきたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願したいと思います。

それでは、本日の案件につきましては、新幹線新駅誘致とツインシティ倉見地区まちづくりの経過等について、それからその他についての案件が2つありますので、よろしくお願したいと思います。

それでは、執行部が入室するまで暫時休憩をいたします。

【関口委員長】 それでは、休憩を解いて会議を再開いたします。

それでは、案件1、新幹線新駅誘致とツインシティ倉見地区まちづくりの経過等についての説明を求めます。

皆川倉見拠点づくり担当参事。

【皆川倉見拠点づくり担当参事】 皆様、改めまして、おはようございます。

それでは、町長室倉見拠点づくり担当が所管いたします案件の1、新幹線新駅誘致とツインシティ倉見地区のまちづくりの経過等についてご報告をさせていただきます。

鈴木専任主幹よりご説明申し上げます。

【関口委員長】 鈴木専任主幹。

【鈴木専任主幹】 おはようございます。

それでは、前回、3月11日の特別委員会以降の経過等についてご報告させていただきます。

前回の特別委員会以降は、地元連絡協議会や期成同盟会など、関連する団体の活動などを中心に業務

を進めてきたところでございます。

経過につきましては、タブレット資料01-1、新幹線新駅誘致とツインシティ倉見地区まちづくりの経過等に基づきご報告させていただきますので、よろしくお願いいたします。

初めに、3月11日に令和6年度、対面では4回目となります環境と共生するまちづくり検討会が開催されました。当日は、まちづくりに関する検討課題や方向性、導入機能の検討や将来像について、イメージを基に意見交換を行っております。

続きまして3月17日に、地元組織であります東海道新幹線新駅誘致地区周辺まちづくり連絡協議会の令和6年度第2回役員会が倉見地域集会所で開催されました。主な内容は、月末に開催されます幹事会に向けての事業報告及び決算報告と、町の組織見直しに伴う会則の一部改正についての確認でございます。

続きまして、3月18日にまちづくりニュース第53号を発行いたしました。タブレット資料は、01-2、資料1でございます。内容は、昨年度の取組を中心としたものになっております。後ほどご覧いただければと存じます。

続きまして、3月28日、県と平塚市、寒川町で構成されるツインシティ整備調整協議会の令和6年度第2回の協議会が書面にて開催されました。

内容は、町の組織の見直しに伴う要綱改正及び寒川駐在事務所ツインシティ整備推進センターの運営に係る令和6年度事業報告及び決算見込み並びに令和7年度の事業計画案、予算案についての確認でございます。

なお、昨年度、本協議会において公用車のマグネットシートの更新、寒川駅南口にあった新駅誘致の看板の更新、それから倉見駅駐輪場への看板の新設を行っております。

タブレット資料01-6は、公用車、寒川駅、倉見駅の画像となっております。

寒川駅と倉見駅の看板については、新幹線のモチーフの中に昨年度の絵画コンクールの入賞、佳作となった児童の皆様の作品を入れたものとなっております。既にご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、参考までに情報提供をさせていただきます。

続きまして、3月29日には、地元連絡協議会の令和6年度第2回目となる幹事会が倉見地域集会所で開催されました。当日は、先ほど役員会のところでも申し上げた令和6年度事業報告及び決算報告と会則の一部改正についてお諮りし、承認されております。

幹事の方からは、リニア中央新幹線や、仮称ツインシティ橋の進捗状況や、町の取組に関するご質疑、ご意見が出されたところです。

続きまして、4月14日、令和7年度第1回ツインシティ整備調整協議会が寒川町役場で開催されました。

寒川駐在事務所ツインシティ整備推進センターの運営に係る令和6年度の事業報告及び決算報告、並びに令和7年度の事業計画案、予算案について審議いたしました。

続きまして、4月17日、神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会の幹事会が神奈川県庁で開催されました。

ここでは、6月2日に開催される期成同盟会総会に向けて、議案や総会決議等の事前確認を行いました。

た。

続きまして、4月28日に地元連絡協議会の令和7年度第1回役員会が倉見地域集会所で開催されました。

主な内容は、令和7年度第1回幹事会に向けての事業計画案及び予算案の確認でございます。

次に、5月13日、東海旅客鉄道株式会社への挨拶及び情報提供が実施されました。

タブレット資料01-3、資料2が当日の概要となっております。

これは期成同盟会活動の一環として平成30年度から実施しているもので、人事異動の時期に合わせて、県、平塚市、寒川町の担当者がJR東海の東京本社に伺い、JR東海からは担当部長を含めて4名の方に対応していただきました。

内容については、専ら自治体側からの新駅誘致に向けた取組に関する情報提供と意見交換等が中心で、JR東海のことを聞くことはできない面談とはなっておりますが、JR東海からは新駅設置の要望に対する回答の中で、新駅周辺のまちづくりの検討に当たり助言を求められれば協力していく、まちづくりを含めた周辺状況を把握していくと言及されていることもあり、建設的な意見交換ができたものと捉えております。

引き続き、JR東海との関係性の維持、進展を図りながら、次の技術的な相談の実現や、新駅設置要望に対する現状より一歩踏み込んだ具体的なコメントなどにつなげていきたいと考えております。

続きまして、5月14日に地元連絡協議会の令和7年度第1回幹事会が倉見地域集会所で開催されました。

当日は、令和7年度の事業計画案及び予算案についてご審議いただき、いずれも承認されております。

また、新たに幹事になられた方もいらっしゃいますので、これまでの町の取組等についてご説明させていただいております。幹事の方からは、リニア中央新幹線の動向、それから、会の今年度の活動方針について、また、この事業に対する神奈川県との関わりなどに関するご質疑、ご意見をいただいたところです。

事務局としては、会の活動を支援させていただくことを通じまして、引き続き情報提供や機運醸成に努めてまいりたいと考えております。

続きまして、6月2日には期成同盟会の総会が寒川神社参集殿で開催され、本町からは木村町長が出席いたしました。

タブレット資料01-4、資料3は1ページから3ページが総会の概要、4ページ以降は当日の配付資料となっております。

はじめに1ページから3ページの資料3、神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会総会について、町作成をご覧ください。この資料につきましては出席者、議事のほか、町で作成した当日の総会の主な発言等を載せてございます。

総会での議事といたしましては、令和6年度事業報告、決算報告並びに令和7年度事業計画案、予算案、総会決議案が審議され、いずれも承認されました。

また、地元自治体である平塚市及び寒川町より取組状況を報告しております。

木村町長からは、直近及び今後の取組について、それから、これにつきまして資料2ページ中ほど以

降に記載されている内容をご発言いただいております。今後も、県及び会員市とも連携しながら、新駅の実現に向けた取組を進めてまいりたいと考えております。

なお、4ページ以降は総会の資料となっております。後ほど、ご確認いただければと存じます。

記載された内容の報告については、以上となりますが、参考資料としてタブレット01-5に、神奈川県鉄道輸送力増強促進会議における新駅設置要望に対するJR東海の令和6年度分の回答を抜粋したものを掲載させていただいております。

3月に回答が公表されまして、ここ数年の回答から一部内容に変更がありましたので、前年分と併せて記載させていただいております。アンダーラインの部分が前年度から変更された箇所となっております。

最後に、今後についてです。

担当の今年度予算につきましては予算特別委員会でもご説明しておりますが、大きくは調査業務と基金積立金といった形になっております。

まず、昨年度から実施している神奈川県との共同調査については、ここで業者が決定し事業に着手するところです。昨年度の現況調査や、測量を基に駅前広場や骨格道路など、区域の骨格となる都市施設や道路、整地、排水などの構造物に関する基本的な設計が中心となっております。

こちらは時間を要する業務ではありますが、一定の整理がついた段階でお示しできればと考えております。

また、経済効果等の調査につきましても、今後発注予定であり、基金につきましても、例年どおり積立てを行うこととしております。

そして、土地利用をはじめとしたまちづくりの検討につきましては、昨年度及び今年度実施します調査等も活用しながら、さらに精度を上げられるよう、神奈川県と連携しながら取組を進めてまいりたいと考えております。

併せて地元に対しましては、勉強会の実施をはじめとして、情報提供に順次取り組むとともに、地元連絡協議会の活動を支援することで、改めて機運醸成を図ってまいりたいと考えております。

報告は以上となります。

【関口委員長】 ただいま、担当から報告が終わりました。

質疑に入りたいと思います。質疑のある方どうぞ。

杉崎委員。

【杉崎委員】 まちづくりの経過等についての中で、まちづくり連絡協議会について、今回が初めての委員会なのでお聞かせ願いたいのですが、幹事のメンバーはどのようなメンバー構成になっているのか、お聞かせいただけますか。

それと29日と5月14日にそれぞれ幹事会が開催されていて、質疑等があったということでございますが、どういった質問が出て、どのように答弁したのかを詳しくお聞かせいただけますか。

【関口委員長】 鈴木専任主幹。

【鈴木専任主幹】 2点ご質問いただいたかと思っております。

まず、初めに地元組織であります東海道新幹線新駅誘致地区周辺まちづくり連絡協議会という組織で

ございます。

こちらにつきましては、地元の町内会、あるいは生産組合、それから商店会、まちづくり団体、そういったところから代表の幹事の方を選出していただきまして、また、新駅誘致及び周辺のまちづくりについて調査研究を行う団体ということで構成されております。人数につきましては、全部で20ブロックで構成されております。

それから、次に会議の概要となっておりますが、令和6年度末と令和7年度と同じような質問があった部分があります。

1つはリニアの状況についてなのですが、当日は、リニアの進捗状況はどうなっているのか、そういったご質問がありました。こちらにつきましては、神奈川県からも説明させていただいておりまして、静岡県がある程度落ち着いてきたというところで、工事はこれからになるのですが、調査については始めてきたといった形のお話をさせていただいております。

それから、今後の活動方針についてというところで、会としてどのような活動をしていったらいいか、例えば視察も検討したらいいのではないかといったご意見もいただいたりしております。そこについては、事務局としても前向きに検討していきたい、そのように考えております。

そういった意見が多かったというふうに認識しております。

以上です。

【関口委員長】 よろしいですか。

【杉崎委員】 はい。

【関口委員長】 他にございますか。

廣田委員。

【廣田委員】 資料に基づいて一括で報告を受けたので、お伺いするのが多くなってしまうのですけれども、一つ一つやらせていただきます。

まず、地元の連絡協議会で役員会と幹事会を開いたというのですけれども、もう少し膝詰めレベルで個々に端末の権利者の方々との接触とか、意見交換をその合間にやっていたのかどうなのかといったところが1点目。

それとせつかく駐在も含めて町の中にいるので、今までどのような協議、そして協力体制をしているのか。町の組織も変わったので、そういったところが2点目。

それとまちづくりニュースなのですけれども、こういうのは間接的に言う話なのですけれども、従前にもいろいろ言っているのですけれども、なかなか受け止めていただけないので細かく言わせていただくと、まず、手に取って、全体的に受け手に対して伝わる意思がないデザイン、簡単に言うと字が多かったりしているので、もう少しポイントを絞った文章構成、図式を取り入れたり、裏面にちょこっとあるのですけれども、何々をやりましたと、その目的はこうです、次に矢印でと、裏面にあるからあのような感じでもう少し整理して、字でずっと書く必要はないのです。

裏面の属性別の説明、勉強会と最後に書いてあるではないですか。あれが、すかすかなので、せつかくでしたら、属性というのは、例えば居住者、事業者、営業者、その他の方々とかあるでしょう、そういったところを工夫してください。これが3点目。

4点目は、町長の同盟会でしたか、発言の中で、2027年をめどに都市計画手続を進めると、もう期限を切った、言及する力強い発言がありました。これについては最高の意思表示だと思って、私は非常に評価しているので、町長指揮の下に頑張ってください。これは要望です。

それと、今度はJ Rの回答です。その中に基盤整備には相当の時間を要する云々かんぬんと言っています。周辺状況を把握しながらというコメントがありますよね、それについての町の受け止め方です。それだけ、以上お願いします。

【関口委員長】 鈴木専任主幹。

【鈴木専任主幹】 4点のご質疑と1点のご要望をいただいたと思います。

まず、地元の連絡協議会の膝詰めレベルの端末での意見交換等を行ったかということについてなのですが、こちらは3月の特別委員会以降は現段階では行っていないといった形になっております。

今後につきましては、説明の中で申し上げたとおり勉強会等を開催し、先にそういったものもできればと考えております。その際には、連絡協の役員さんの方とも調整させていただきながら、実現できればと考えております。

それから、2点目の駐在との協力体制でございます。

年度が変わりまして、ここで町の組織も変わりました。駐在も組織が変わりました。改めて駐在とは、技術的なことも含めて、それから共同調査もございますので、そういったところはこれまで以上に連絡を密に調整しながら進めていきたいと考えておりますし、実際そのようにやっているところです。

そして、ニュースにつきましては、字が多かったレイアウト等につきましては、ご意見ありがとうございます。ご意見を受け止めまして、今後のニュースの分かりやすい紙面づくりに反映できればというふうに考えております。

それから、最後、県鉄の回答に対する受け止めでございます。

こちらにつきましては、期成同盟会の総会の中でも事務局から、神奈川県から説明があります。文面で、この中で倉見のまちづくりも相応の時間がかかるので、J R東海からは今後、今時点の段階から、これまで以上に積極的に新駅設置に係る調整だったり、相談だったりに応じていただけるのではないかと期待しているという旨の説明がございました。

担当としましても、こういった形の相談とか協議がさらにできるようになるのではないかと期待しているところでございます。

以上です。

【関口委員長】 廣田委員。

【廣田委員】 1点目の地権者との接触なのですけれども、もう少しニュースで具体のスケジュールを入れて、先々の情報をお知らせしたほうが良いと思います。情報がないと不安になってきてしまうので、私も地元をいろいろ取材していて、どうなっているのと当然聞かれますが、一定のところはお話はしていますけれども、だから、今後やっぱり皆さんを集めての説明会みたいなのをやるとは言っているのですけれども、その後に個別にやると言っているのですが、その間に個別にも情報をお知らせするという行為はやったほうが良いと思います、個別に。ニュースを配るときにも接触があると思うのです。やっぱり、情報というのは、1か月間が空いてしまうとどうしても記憶が薄れていってしまうのです、

皆さん、いろいろな社会活動されているので、埋もれていってしまうので、やっぱり膝詰め、行けるところからでいいので、全部やれという話ではなくて、そういったところの方々と日常的なパイプラインはつないだほうが、全体の説明会をやったときとかにそういった人たちが支援してくれると、そうすると、従前に、ほぼ説明会はいい雰囲気ですっていいそうだなという執行部の感触にもつながるわけではないですかね。ね、というか、だから、そういうところは少し努力して頑張ってください。

それと駐在の話なのですけれども、駐在がせつかく身近にあるので、今後基本設計とか経済効果の調査とかをやっていくと、共同事業に対して取り組んでいくとあるのですけれども、積極的に技術的な助言なども含めて協力してもらったほうがいいと思います。とりわけ、基本設計は、基本設計が決まってしまうと街区の構成も決まってしまうので、その辺を、民間活力の導入なんかも考えて気をつけてやったほうがいいと思います。

以上です。

【関口委員長】 鈴木専任主幹。

【鈴木専任主幹】 まず、地権者との接触等についてです。

ニュース配布でしたりとか、そういうときに幹事さんの方とお話しさせていただいたり、その他、去年の話にはなってしまうすけれども、測量の案内等をするときに、地権者さんには直接お話しさせていただいたことがありました。

その中で、新幹線の取組についてお話しさせていただいて、実際にその中で、まだ全然、現実のものではないのではないかとというご意見の方もいらっしゃったのですけれども、JR東海さんの動向なども含めてお話しすると、ああ、進んでいるのだなというご意見もいただいたりしたことがございます。

今後につきましても、そういった機会を捉えながら、全体も含めてある程度の小グループだったり、そういうのもできるように考えていきたい、このように思っております。

それから駐在との協議につきましてですが、おっしゃるとおり今年度、共同事業がありますので、こちらについては、今から準備として調整はさせていただいておりますので、ご意見を踏まえまして、さらに連絡を密にして調整をしていきたいというふうに考えております。

以上です。

【関口委員長】 今の個別の部分については、よく連絡協議会とも調整をしてください。勝手に入って、連絡協議会が成り立たないという、これでは困りますので、よく調整した上で入るような形を取らないと組織的にばらばらになってしまいますから、そのところはよく協議してください。

他にございますか。

今の件ね、皆川倉見拠点づくり担当参事。

【皆川倉見拠点づくり担当参事】 地元の対応につきましては慎重にしながらも、やっぱり全体会で説明会を開いても、なかなか人が集まらないという状況もございますし、やはり、地権者の皆さん、それぞれ属性、属性といいますが、いろいろ住んでいる方、農家を営んでいる方、そこに働いている方といろいろな状況もございますので、そういった方々のニーズに応じて説明をする機会も持たなければいけないと思っていますので、全体、あるいは個別というのをバランスを取りながら、なおかつ地元の会長と役員の方々と相談しながら臨んでいきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

【関口委員長】 他に質疑ございますか。

青木委員。

【青木委員】 01-2のまちづくりニュース第53号の2ページ目の今後の取り組み予定で、補償や税金に関する勉強会を開催しますとなっているのですけれども、現時点で補償とか税金に対する勉強会をどう進めていくかについてお聞かせください。

【関口委員長】 鈴木専任主幹。

【鈴木専任主幹】 こちらにつきましては、補償、税金というのは町職員以外の専門的な知見を持つ人も含めた形で、そういった勉強会という形で集める機会を開催していきたいと考えております。

以上です。

【関口委員長】 青木委員。

【青木委員】 今の答弁だと、全く、やるけれども中身的なことは、何かしようとかということはないのかと、あと、01-4の期成同盟会の資料で、木村町長の答弁、見解を述べたところによりますと、リニアの下から3つ目の文章になるのですが、手続や工事に10年以上程度かかると想定すると、2027年頃をめどとして都市計画の手続ができるよう状況を整えておく必要があるというふうな見解をこの中で述べているのですけれども、2年後だから12年、12年ぐらいを大体新駅ということを町長としては考えているのかなと思うのですが、実際に現場というか、やる想定をしているところを見たりすると、なぜ先ほどの1問目を聞きたかったかということ、地権者の方が、やっぱり、増えているわけです。いろいろと古い家が、広い家が、土地を持っていた一軒家がなくなって、そこに新しい家が何軒か建つようなところが結構見受けられるわけです。そうすると、地権者が増えていくとなると、補償も将来的に増えていくのではないかなということ、その辺の見解を少し聞きたいなと思って、1問と2問と連携させて聞いたのです。その辺の見解をお聞かせください。

【関口委員長】 鈴木専任主幹。

【鈴木専任主幹】 説明会、勉強会につきましては、まず補償の関係と税の関係というところでお示しをさせていただいております。

まずは補償の一般的なお話、どういったものが補償の対象になるのか。それから、どういうタイミングで補償が行われるのか、そういったところの、まず一般的なお話をさせていただきたいと考えております。

それから税に関しては、ここの区域が市街化調整区域が混ざっているところになりますので、そこを市街化編入した場合に想定される税金の変化、そういったところを、まだ調整中なのですが外部講師の方とかを含めてお話をする機会を設けていきたいと考えております。詳細については、今後また、決まり次第お示ししていきたい、そのように考えております。

それから、先ほどの期成同盟会での町長発言の年次のお話がございました。今、期成同盟会では、こちらの新駅の実現については、リニアの大阪開業と同時の新駅設置を目指しているということになっております。期成同盟会で目指している大阪開業は年次がいつなのかということなのですが、ここは今の国のほうでは最速2037年を目指すとっております。そこから工事等で逆算して10年程度というところを見て、2027年頃にはというようなお話をさせていただいているところです。

あちらの今、重点的に検討している新駅周辺整備検討区域、こちらについては、確かに家屋等が多く建っている部分ではございます。ただ、こちら事業が始まった場合には、将来的には当然補償はさせていただくという形にはなりますので、そこはそういった説明を1回だけではなくて、随時繰り返し行いながら、ご理解いただけるような形で努めてまいりたいと考えております。

以上です。

【関口委員長】 青木委員。

【青木委員】 2037年、開業が2030年、だからそれ以降に町としては着手するという事だから、まださらにかかるということなのですけれども、そこで、地権者も今、徐々に増えていることについて、地権者が増えるごとに補償も、だから増えるから、その点の見解をと聞いたんですけれども、その辺の、現時点での町の見解、あと地権者が増えるほど、分母が増えるほど補償もやっぱり増えていくわけではないですか。その辺のところは、町としてはどう考えているかを聞きたかったのです。だから、その辺のところの見解を、現時点での見解をお聞かせください。

【関口委員長】 鈴木専任主幹。

【鈴木専任主幹】 事業のエリアの地権者数が、確かに開発等が行われて新たな住民となる方が増えていくだろうという状況は承知しております。ただ、事業が始まったら、多いからいいとか少ないからいいとか、少なく抑えたいとかそういうことではなく、事業が始まった段階で適切に補償はさせていただくようになるかと考えております。

以上です。

【関口委員長】 他にございますか。よろしいですか。

(「よろしいです」の声あり)

【関口委員長】 なければ副委員長。

福岡副委員長。

【福岡副委員長】 すみません、私から1点。期成同盟会の総会資料の中に、先ほどからお話の出た町長のご答弁の中で、2027年頃をめどに都市計画手続ができるよう、状況を整えておく必要があるというお話がありましたが、それに向けた具体的なスケジュール感といいますか工程表、そういったものを、もし、考えていらっしゃるのであればお示しいただきたいと思うのですが、今時点、どのような形で進めて、2027年頃をめどとして終えていくスケジュール感を考えているのか、お聞かせください。

【関口委員長】 鈴木専任主幹。

【鈴木専任主幹】 すみません、口頭での説明になってしまって恐縮ですが、大きく大枠で申し上げますと、まず、今年度につきましては共同調査、そういった準備の期間になろうかと考えております。

それから、今年度末になろうかと思いますが、共同調査の中である程度の絵姿であったり、それから工事費概算、そういったものも出てくると想定しております。

それをもって、来年度以降に実際に、どういうスキームで行うのが最も適切であろうか、そういったことであったり、そういった検討であったり、それから神奈川県との協議を行いまして、その後に、こちらの倉見地区につきまして、来年度は県との協議だったり、庁内での検討だったり、そういったことがメインになってくるのかなと思います。

その後、こちらにつきましては、駅を前提としたまちづくりというところもございます。ある程度、新駅ができるかどうかというところの見極めとか、そういうのを踏まえた上で、その先に都市計画手続等に入っていき、そういう前提条件がクリアできた段階で、その先の手続等に入っていきという形になるかと思えます。なので、今年度につきましては、ある程度調査、そういったもの、それから来年度以降は、関係機関協議だったり、そういったところ。そこがクリアできた段階で、その先に進んでいくのかなと想定しているところです。

以上です。

【関口委員長】 それでは、質疑を終結いたします。

委員の皆さん、よろしくお願ひしたいと思います。

拠点づくり担当参事から一言挨拶したいという申出がありましたので、一言いただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

皆川倉見拠点づくり担当参事。

【皆川倉見拠点づくり担当参事】 委員長から発言の機会をいただきましたので、町長室となりました倉見拠点づくり担当における今後の見通し、展開、取組の考え方についてお話をさせていただければと存じます。

ただいま、専任主幹から、るるご説明をさせていただきました。倉見のまちづくりににつきましては、新幹線新駅を前提としているがゆえに、実現時期や鉄道施設規模など、先行きや諸条件が不透明、不確実な状況での取組となっております。

そんな中でも、先ほど報告にありました同盟会の総会では、県からの説明の中で、駅舎パターンや線増による拡幅形状の資料などを示しながら、JR東海との技術相談の内容の一部をご紹介する場面がございました。

さらには、県の部長からは、交渉中ということもあり、公にできないとしながらも、実際はこれより1歩も2歩も踏み込んだ話をしていると発言された場面もございました。相手がいる中で未確定な状況を含め、ありのままの説明をお伝えすることはできないものの、これまでのJRからの発言や要望に対する回答状況の変化などから考えて、新駅の実現が否定される要素はないと考えていいのではないかと捉えているところでございます。

あとは、諸問題により当初の計画から遅れているリニアの整備状況をにらみながら、町として新駅誘致地区周辺のまちづくりの準備を進めていくことに傾注していきたいと考えます。

ご存じのとおり、4月の組織の見直しで、町の重要なプロジェクトを全庁的に取り組む部署として新たに町長室を設置し、特にツインシティ倉見地区のまちづくりに係る業務につきましては、専任の部長相当職を置き、さらには技術職員を据えて、神奈川県、JRをはじめとした関係機関との折衝や技術検証などにも密に、かつ積極的に対応する体制を整えてまいりました。

まちづくり検討につきましては、昨年度から実施している神奈川県との共同調査委託を通じて、必要な都市施設、期待する業務系土地利用に係る考え方を共有しつつ、実現可能な整備検討を加速化し、これと並行して昨年度は機会が少なかった、地元の皆様への情報提供の場、事業を理解していただく場、意見のやり取りの場を地元の皆様のご協力の下、神奈川県とともにしっかりとつくってまいります。

また、関連する内容といたしまして、仮称ツインシティ橋や宮山線の整備についても神奈川県は着手を開始し、具体的な工程時期も順次示されてまいりました。

これに伴い、町としてもJR相模線倉見駅周辺の整備方策や、宮山線沿道の土地利用の在り方に関する検討なども含めて、ツインシティ倉見地区全体の具体化についても庁内において横断的に取組を進めていく考えでございます。

まだまだ解決すべき課題は山積しておりますが、委員の皆様をはじめ、議会の皆様におかれましては、引き続きご支援をお願い申し上げます。よろしく申し上げます。

【関口委員長】 いずれにしても、今、担当参事から挨拶がありましたけれども、町長室ができて新たな形でのスタートを切りました。そういった意味では、この都市未来拠点・新幹線新駅対策特別委員会も、また新たな気持ちでいかなければいけないかなと思っておりますし、特に先ほども委員の皆さんから発言もありましたけれども、神奈川県とどうやって協力をしながら地元に入るか、また、いろいろな協議をしていくかということが非常に大事な1年になるのかなと思っております。

先ほど課長からも、報告案件の最後にこの1年間の大体の流れは話がありましたけれども、どうか腹をくくって地元との協議、または地元との話合い、それから、今、なかなか温度が上がってこない地元の温度をどうやって上げていくのか。こういったことを含めて、しっかりと庁舎内で検討していただきながら、神奈川県を動かして、そして地元に入りながらさらに深めるという、こういう戦いを進めていただきたいなと思っておりますので、最初のスタートに当たって申し訳ないんですが、お世話をかけますけれども、腹をくくって動き出しをしていただきたいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、以上で第1点につきましては終わりたいと思っております。ご苦労さまでした。

暫時休憩をいたします。

【関口委員長】 それでは、休憩を解いて会議を再開いたします。

案件2、その他に入りたいと思っております。

委員の皆様から何か、その他についてございますでしょうか。よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

【関口委員長】 事務局から。

【大川議会事務局長】 すみません、1点だけ。

【関口委員長】 じゃ、よろしく願いいたします。

大川局長。

【大川議会事務局長】 すみません。それでは、事務局から1点ほどお話をさせていただきたいと思っております。

先ほど倉見拠点づくり担当参事から、今後の取組についての発言がありまして、その中で、ツインシティ倉見地区全体の具現化について少し触れられておりましたけれども、その件に関することをご報告させていただきます。

資料のほうを添付してございます。99、特命事項をお開きください。本会議1日目の6月3日に、正副議長及び正副都市未来拠点・新幹線新駅対策特別委員会委員長に、執行部の町長室長からご報告がご

ございました。

内容といたしましては、ここで町長の特命事項として北部地区土地利用戦略プロジェクトを立ち上げ、都市計画道路宮山線の整備に合わせて、町域北部のまちづくりを見据えた都市計画道路沿線の土地利用、都市機能配置の検討を行い、北部地区全体の相乗効果が得られるよう、土地利用の検討を進めていくとございます。このプロジェクトチームで検討が進み、議会へ報告できるような案件が発生した場合は、この特別委員会で報告いただけるというような流れとなりましたので、この場をお借りしてご報告させていただきます。

報告は以上でございます。ありがとうございます。

【関口委員長】 今、局長からお話がありましたように、町長室からそのような形での報告もございますので、しっかりと、建設経済常任委員会とか、それから総務常任委員会とも連携を取りながら、しっかりとやってまいりたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでもう1点は、この前、神奈川新聞に出ていたので投げかけたのですが、要は、リニアの相模原の見学ができないかという、神奈川新聞に出ていましたので、そうしたら、やっぱり地元の方たちだけにやった見学会だったらしいのです。新聞に出ていたのですけれども、なかなか外部に向かってということになると非常に厳しいみたいで、どういふふうになるか、これからまた、いろいろ詰めていただこうと思ひますけれども、JRなのか県なのか相模原なのか分かりませんが、また変化があれば、ただ現状としては非常に厳しいという話がありましたので、本当は現場を見られたら、さらにこちらもいろいろな意味で見識が広がるなと思ひたのですけれども、そのような状況なので、また改めて、何か変化がございましたら皆さんにご連絡しますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、以上で案件の全てが終了いたしましたので、福岡副委員長から最後の締めのお言葉をいただきます。

【福岡副委員長】 皆様、お疲れさまでした。

これにて、本日の都市未来拠点・新幹線新駅対策特別委員会を終了したいと思います。

お疲れさまでした。

午前9時48分 閉会

寒川町議会委員会条例第27条の規定により、ここに署名する。

令和 7年 8月 26日

委員長 関口 光男